

孫への遺産、花の絨毯芝ざくらづくり

■ 連携している団体等の名称

新戸芝ざくら愛好会
新戸老人クラブ寿会連合会
新戸自治会連合会



■ 代表団体の連絡先

新戸芝ざくら愛好会
会長 川崎喜代治
相模原市新戸2033
電話 046-251-0987

事業の目的

- 1 老人の生き甲斐活動
- 2 地域の自然と田園風景の温存

事業の概要

- 1 自然と田園風景を温存しながら、その中にある荒れた公有地を活用した花づくり
- 2 ボランティアと市の支援による平成6年4月～16年3月＝10ヶ年計画
- 3 事業区分

No.	事業名称	土地	市支援内訳	維持管理
1	通学路に四季の花さく花壇づくり 9ヶ所	下水道敷	平成6年12月～平成7年12月 場所づくり	老人クラブ 冬期除き月1回
2	散策路(あじさい、河津ざくら) 600m 彼岸花 保存 170m	廃堤防敷	平成9年～平成16年11月 場所づくり	同上
3	孫への遺産花の絨毯芝ざくらづくり 820m	堤防法部 活用	平成14年9月～平成16年10月 場所づくり	芝ざくら愛好会 冬期除き月1回

今後の課題

- 1 ボランティア活動で推進したものの持続性は難しいと考えられる。
- 2 多少の打ち切り交付金の支出が必要と考えられる。
- 3 団体別、地域別、目的別に別けた、市と協同した事業の推進
例えば 公園管理、低木管理
- 4 未利用公有地の提供

あそびの城 JOIJOY スクール

■ 連携している団体等の名称

相模台地区自治会連合会
地区老人クラブ連合会
スポレク相模台 JOIJOY

■ 代表団体の連絡先

あそびの城JOIJOY SC
相模原市相模台2-15-14
代表 菊地原 弘道
電話 090-2919-7455

集まれ! 「あそびの城」JOIJOYスクール



事業の目的

青少年の問題行動が深刻化している社会的背景の中、地域、家庭、学校が協働し、子どもの多様な活動を可能とする「子どもの居場所」活動拠点をつくり、健全育成を図ります。

思いやりの心、命の尊さ、社会的規範などは、学校生活だけでなく、家庭や同じ地域社会で暮らす人々との交流を通してこそ生きる力となるものと考えます。そこで人と人、人と地域のつながりを大切に、支えあいの関係を築きながら、笑顔あふれる明るいまちづくりをすすめます。

理 念

あいさつの 笑顔が光る 相模台

事業の概要

内 容 伝承あそび「お手玉・竹とんぼ・あやとり」等
季節の行事・ハイキング・いもほり 夏祭り協賛
絵画教室 卓球、パドミントン、G/ゴルフ、
パタンク等の集いと教室開催(年6回)
三世代交流スポレク大会(年5回)
自治会運動会・公民館高齢者学級支援

活動日 原則 毎週土曜日の午前中と日曜日の午後

場 所 相模台小学校校体育館・校庭
相模台ふれあい広場 公民館他



絵画教室

今後の課題

会場の確保 スタッフの不足
事故対策「保険・補償」責任問題
運営資金確保

展 望

市民力を結集し新しい公共の創出に努めたい。
行政・諸団体とのパートナーシップにより継続したい。



スポーツ教室(パドミントン)

地域内防犯パトロール

■ 連携している団体等の名称

相栄地区防犯ジョイント・サーティ
特定非営利活動法人
日本ガーディアン・エンジェルス大和支部
相模原市立弥栄小学校PTA



■ 代表団体の連絡先

相栄地区防犯ジョイント・サーティ
相模原市相生2-13-5
隊長 飛澤大山

事業の目的

地域内で頻発する盗難、ひたくり及び児童生徒に対する変質者による路上犯罪等の被害、更に犯罪に起因する災害並びに交通災害を未然に防止し、常に住民の誰かの目があって犯罪が発生し得ないような、明るい街づくりに寄与する。

事業の概要

市内相生、高根2丁目、弥栄、松が丘の各地区の自治会員及び店舗・事業所等を持つ企業で「相栄地区防犯ジョイント・サーティ」を結成し、平成16年1月より、国際NPO法人の日本ガーディアン・エンジェルズ隊員の指導、並びに相模原市及び相模原警察署の職員の同行など強力な支援のもとに地区内の夜間防犯パトロール、街頭でのビラ配布等を実施してきた。

昨年夏からは地区内の小学校、同PTA、子ども会育成会等の参加を得てこれが一層活発化し、登下校時のパトロール、ごみ出しや犬の散歩を登下校時間に合わせるなど、地域住民の協力が得られるようになった。また、学校近接の自治会では、宣伝カーによるパトロールを実施している。

今後の課題・展望

パトロールの時間帯の拡張、行動範囲を住民の通勤・通学経路に広げること、このために若い人の参加など参加者の年齢層の拡大、自転車部隊など機動力の増強、パトロールの際の対応技術の習得・向上により効果を高めることなどが当面の課題である。

最近の防犯意識の急上昇が追い風となり、関係団体で腕章など装備の整備や、小人数でのパトロールも行われてきているので、先は明るい。



ステップハウス「みんなの家」

■ 連携している団体等の名称

ういず 代表 渡辺裕子
パラボラ相模原
代表代行 古川繁子

■ 代表団体の連絡先

NPO法人パラボラジャパン（申請中）
代表 森田政記
相模原市共和 4-12-8
電話042-755-9010



Eメール morita@masaki.cc ホームページ <http://masaki.cc/>

事業の目的

主として、情報弱者（障害者、高齢者、外国籍の人）並びにDV被害者等の社会的弱者を対象とした、自立支援活動を目的とする。

事業の概要

(A) 障害者自立支援に向けてのIT教室 〈参加者 4名〉

平成16年9月～17年2月

プログラム内容:①Windowsパソコンの基本操作、②Wordの基本操作、③電子メールの利用とWebの閲覧と検索、④音声ソフトを利用したExcelの応用操作、..等を実施しました。

(B) 多文化共生社会に向けてのIT教室 〈参加者 5名〉

平成16年9月～17年2月

プログラム内容:①日本語版Windowsパソコンの基本操作、②インターネットによる情報収集の基本操作、..等を実施しました。

(C) 心を拓く講座 “DVってなに?” 〈参加者 20名〉

講師 阿部裕子氏、NPO法人 かながわ・女のスペース“ミズラ”

日時 平成16年12月11日 13時半～18時、市民会館にて

プログラム内容: 13時半～講演、16時～交流会、16時半～個別相談会。なお個別相談会の後、当事者の希望により、みんなの家でカウンセリングを行い、心療内科医にリファーしました。

(D) 英語で あそぼ、地域の子ども達と公開英会話体験教室 《予定》

(E) 土曜日に みんなの家で フリー・スペース をオープンしています。

今後の課題・展望

心を拓く講座の受講者には、当事者としての自助・共助の心が芽生え社会参加に向けて、自信が持てるようになったことが成果と言えよう。DV被害者支援について当事者の話を聞くこともでき理解が深まった。更に社会的弱者の自立支援に向けて、IT教室もその一助となるように努力したい。

今後は、抱え込みにならない、自助・共助を進めるために担当スタッフの学習も必要であり、事業を継続するには、コミュニティ・ビジネスの展開が急務となろう。

わが町生ごみ減量プラン

■ 連携している団体等の名称

相模原いきごみ隊
農業生産法人青空農園
東第3自治会
相模原リサイクル連絡会

■ 代表団体の連絡先

代表 細田 理
相模原市由野台2丁目19番10号
〒229-0022
電話042-753-0340



Eメール saitowave@yahoo.co.jp (齊藤あて)

ホームページ <http://www.geocities.jp/ikigomitai/index.htm>

事業の目的

世界中の焼却炉の2/3がある「焼却依存症」の日本。ゴミを燃やし続けることは経済的にも環境にも未来への大きな負担です。私たちは「ゼロウェイスト」を目指し、燃やす事に特に問題のある生ごみの資源化を地域住民自らが考え実践していくシステムづくりを目指します。

事業の概要

家庭で出た生ゴミを堆肥として利用してもらい、できた野菜を食べてもらうという地域モデル事業を構築します。又、そのシステムが他の地域でも実施できるよう情報をHPやリーフレット等で公開していきます。

1. 東第3自治会会員を対象にリサイクル連絡会と協働し生ゴミ減量と資源化のワークショップを開催。資源化の必要性とそれぞれの家庭にあった生ゴミの減量方法の理解を深める(生ゴミを出さない調理方法、密閉バケツを利用した生ゴミの堆肥化の方法とその利用法など)
2. 農業生産法人青空農園とのパートナーシップにより、キッチンと農家を結ぶ生ゴミ回収システム「KARS」を利用した有機野菜購入のモデル事業の実施 ⇒週に1回家庭から生ゴミを回収し、その堆肥を利用してとれた旬の地場野菜を購入するシステム
3. 生ゴミから作られた堆肥材の成分調査とぼかしづくり

今後の課題・展望

循環型社会へむけた生ゴミの資源化、都市農業の振興、コミュニティづくりはどれも大切な課題です。市民ができることをやる、私たちがやれることを引き受けるという事は、きたるべき豊かな市民社会の萌芽でもあります。

市民、農家、行政に事業者、学校給食までこの課題に関わってくるだろう沢山の担い手と共に、大きな課題を小さな実践で解決の糸口を探っていくことは、わくわくするほどステキなことです。

豊町まちづくり協議会

■ 連携している団体等の名称

自治会法人 豊町自治会
豊町まちづくり協議会

■ 代表団体の連絡先

豊町まちづくり協議会
代表 松井幸雄
相模原市豊町11-2



事業の経緯と目的

豊町の概況 相模大野駅から座間方面に1.1km 面積13.4ha
自治会員約400名 非会員約50名 町外地権者約100名

平成13年当時の豊町

- 上鶴間線道路の開通
- スーパー三和の移転参入
- 南文化センター廃館のニュース
- 近隣町内に高層マンション建設

平成13年 3月 「豊町まちづくりを考える会」を有志で発足

平成13年12月 全住民にアンケート実施

予想を上回る回答率 「豊町ニュース」で全てフィードバック
最も多い意見要望

- ①良好な住環境の維持
- ②南文化センター跡地について
- ③スーパー三和前の信号機設置

平成14年 3月 「豊町まちづくり協議会」を設立

ビジョンを“わたしたちは明るく健康的なそして緑と触れあいと安全のまちをめざします”とする。

市はこの活動に庁内で公募した区画整理課 安藤氏、公園課 金城氏を派遣。

- 協議会内に3分科会設置
- ①地区計画推進委員会
 - ②南文化センター跡地対策委員会
 - ③信号機設置委員会

事業の概要と今後の課題

(1) 地区計画推進委員会

委員16名 自治会1区～6区各2～3名

市建築総務課 大塚氏(途中から梅澤氏に交代) 本橋氏

アドバイザー 北島氏(途中から松縄氏に交代)

全住民からのアンケート(意見・要望)とフィードバック(まちめと中間報告)の繰り返し

町内を住宅地(11.2ha)と行幸道路沿い(2.2ha)に2区分

建築物に関する事項 ①用途 ②最低面積 ③壁面位置 ④高さ

問題は高さ制限 第1次修正 住宅地11m・3階 行幸道路沿い14m・4階

→企業、マンション業者、病院等の反対をうけ調整。

第2次修正 住宅地13m 行幸道路沿い16m(北側斜線導入)

(次ページにつづく)

事業の概要と今後の課題 (つづき)

平成16年11月21日 市主催地権者全体説明会開催

住宅地区内から最高高さ緩和の要望あり。

発言者を訪問＝説得＝委員会調整の繰り返し、公益性業種と認め協議会に報告、承認を得る。

平成17年1月 再々修正地区計画書(案)を全住民、地権者に賛否のアンケート発信・回収

町内回収率 85.3% 賛成率 97.6%

平成17年2月 市、行政手続

市庁内縦覧 全住民案内 →都市計画審議会→決定→告示(予定)

今後の課題

全住民からの要望が高い景観・緑化等について自治会と協力して地区住民による「まちづくり協定」(紳士協定)を定め、美化運動を推進したい。

(2)南文化センター分科会

南文化センターの廃館情報をうけ、市に存続のよびかけ

市から計画案が示され、平成16年7月「跡地利用に関する要望書」を提出

同年8月、市長からの回答書受理

跡地 5,300㎡ 内 保育園 2,500㎡(～2,300㎡) 民営化

公園 2,800㎡(～3,000㎡) ワークショップ方式で検討

今後の課題

保育園 市保育課を通じ、民営法人与自然調整をはかる。

公園 ワークショップ方式で協議し、まとめる。

(3)信号機設置委員会

信号機設置の条件

①スーパー三和＝黒河内病院道路幅を6mにすること→市の協力で拡幅決定

②反対側道路を一方通行にすること→市、警察当局と協議を重ね、実施の方向にまとまりつつある。

結果は全住民に説明し了解を得て、市長宛に要望書を提出することになっている。



第2回 淵野辺ボンバイエ！

■ 連携している団体等の名称

麻布大学環境保健学部
NPO・企業・教育機関・行政
など32団体がブース参加
にこにこ星ふちのべ協同組合
NPOサポートセンター

■ 代表団体の連絡先

淵野辺ボンバイエ運営委員会
委員長 木下恵介



Eメール f-bom-ba-ye@mail.goo.ne.jp
ホームページ <http://f-bombaye.main.jp/>

事業の目的

淵野辺ボンバイエとは、参加型交流イベントです。麻布大学百周年記念ホールに学生、子ども、地域住民、NPO・NGO、市民活動家、企業、行政が集い、新たな交流・新たなつながりを創ることによって、参加者一人一人が新たな可能性を見つけること。それが淵野辺ボンバイエの目的です。

事業の概要

1月22日に実施した。プログラムは以下の通り。

交流ブース：NPO、企業、教育機関、行政など32団体が出展。

オープニングゲーム：プロジェクトワイルドのゲームでアイスブレイク。

大学地域連携プラットフォームシンポジウム：大学地域連携の可能性を語った。

パネラー 山岸秀雄(NPOサポートセンター)

渋谷勝美(大学地域連携方策研究会)

政岡俊夫(麻布大学学長)

マイクパフォーマンス：ブース出展者のアピールタイム

子どもエコ探検ツアー：学内の環境施設に子どもをご案内。

淵野辺スライドショー：淵野辺まちづくりのスライドとトークショー

ステージパフォーマンス：由野台中学校、ZAP☆ee、オスリーズ。

ラストゲーム：別れを惜しみつつビンゴゲーム

来場者、スタッフ、ブース出展者のべ300名の参加者を得た。

今後の課題・展望

今回のボンバイエは、大学地域交流に関して大きな成果があった。今後またボンバイエを開催するならば、今回の成果をベースに、①大学間の交流をすすめる。淵野辺地区の青山学院大学、桜美林大学、和泉短期大学との連携をすすめたい。②ふちのべ商店街との連携を基本に、地元企業や行政との連携をもっと進めてゆきたい。③子供向けプログラムの充実。

“森の達人にならないか！”

■ 連携している団体等の名称

主催：大野台地区青少年健全育成協議会
大野台公民館
主管：ジュニアボランティア・サポーター（森林ボランティア相模原こもれび有志と地域の協力者）
大野台地区青少年指導員



■ 代表団体の連絡先

大野台地区青少年健全育成協議会
事務局：大野台公民館内
Tel042-755-6000

Eメール oonodai-k@city.sagamihara.kanagawa.jp

事業の目的

地域の自然「木もれびの森」を活用して、年間を通じた森林の観察、森林の保全活動、森林を利用した遊び等の生活体験を小中学生に提供し、森の素晴らしさを体験すると同時に、森の役割や森と人との関わりへの理解と関心を深めてもらう。

事業の概要

相模原市から地域・子どもふれあい事業補助金の交付を受けて、平成15、16年度実施。活動内容は次の4要素をもとに年間12回（月1回）のプログラムを構成した。参加者は小学5年生から中学3年生22名であった。

- ①自然観察（森の構成、森の季節変化・植物の生長、夜の森、森の動物）
- ②森の保全活動（下草刈り、落ち葉かき、間伐、どんぐりの植付け）
- ③森と人の関わりを知る体験（ホダ木作り、椎茸菌の植付け、堆肥作り）
- ④森を楽しむ体験（森のゲーム、フィールドラリー、焼芋、工作）

また、連携する団体等は次のとおり役割分担して、事業に関わった。

- 各回のはじまりの会、終りの会の進行 …… 青少年指導員
- 子どもたちの交通・防犯上の安全指導 …… 青少年指導員
- 森の活動全般の指導、物品調達・確認 …… 森林ボランティア
- 事務、連絡・調整、物品調達・管理 …… 大野台公民館

今後の課題・展望

本講座に参加した子どもたちが森の保全活動に関心を寄せ続け、森林ジュニアボランティアとして活動できる環境をつくること、更に、学年が進んでからもジュニアボランティア活動のサポーターとして後輩の育成に力を発揮できるような態勢をつくること、そしてこの活動が地域の子どもの活動として根付き、やがては自立した活動へと発展させることが今後の課題である。

企業の社会貢献推進会議

■ 連携している団体等の名称

さがみはら市民会議
相模原市・メンバーズ21
パブリックリソースセンター
日本フィランソロピー協会他

■ 代表団体の連絡先

相模原市富士見6-6-1
相模原法律事務所 内
電話 042-756-0971
FAX 042-756-0973
Eメール fwbc0876@mb.infowed.ne.jp

企業の「志」と地域の想いを繋げる
さがみはら「企業の社会貢献」推進会議

◆ 代表世話人の挨拶
◆ 「企業の社会貢献」とは？
◆ 「企業の社会貢献」座談会
◆ 連続講演会の日程
◆ 入会のご案内
◆ メールマガジンについて
◆ 企業の社会貢献Q&A
◆ お問い合わせ

◆ (社)日本フィランソロピー協会
◆ 役員連1%クラブ

ブックオフ 坂本社長が熱く語ります！(写真右)

日時 平成12年2月20日午後1時30分
場所 相模原市産業会館 1F多目的ホール
人数 200人
参加費 お一人様 1000円

ホームページ <http://u-go.to/scn-net>

事業の目的

昨今、「まちづくり」を行政のみに委ねるのではなく、市民が参加した「まちづくり」の必要性が強調されています。企業もそのステージを担うセクターのひとつとして、地域における市民活動とパートナーシップを構築していかなければならない必要を感じ、その構築を目的としています。

事業の概要

地域市民活動とどのようなパートナーシップを構築していくのかを、企業者の視点から研究し、よりよい市民社会の実現に向けた企業と市民の新しい関係を創造してゆく第一歩とすることを研究し、一年の期間限定にて昨年設立いたしました。

まずは、企業の社会貢献の概要・理念を知るための連続講演を行い会員の理解を深め、その後相模原市内における社会貢献の実践者とNPOにて活躍されている団体との意見交換会を設け、相互の理解を深めました。

社会貢献名刺も作成し、売上の一部をNPOに寄付をいたしました。そして本年、2月20日にメインフォーラムを開催いたしました。今後は企業やNPOへの協働事業への指針を目指し、提言書を作成いたします。

また、将来的には市民ファンドも検討中で、ドネーション等も行いたいと思います。



今後の課題・展望

多くの意見交換を踏まえ、NPOと企業相互の信頼関係の構築が必要で、活動の理解や人柄を知る交流の場を継続的に、かつ広域に持つこと重要となります。

また、活動の報告等を随時行うことにより、顔の見える信頼関係ができ、NPOのビジョンを示すことにより今後の活動への支援が容易になると考えられます。